



芝川又右衛門邸は1日8回、ガイドによるツアーがあり、内部を見学できる
 ※愛知県大山市の明治村で

和洋折衷の美 明治村に復元

08.3.20

はんしん2020s
 写真・文 山田哲也

かつて西宮市上甲東園2にあった明治後期の洋館・芝川又右衛門邸は、阪神大震災で建物が傾き、煙突が倒壊するなどの被害を受けた。同邸は調査解体後、明治建築を保存展示する明治村（愛知県大山市）に寄贈された。2年半をかけた復元工事が昨年9月に完了し、同村では68番目の建物として一般公開されている。

同邸は西宮で果樹園「甲東園」を拓いた大阪の商人、芝川又右衛門が、後に京都帝大建築学科の創設者、武田五一に設計を依頼。果樹園の一角に別荘として建てられ、1911年（明治44年）に完成した。傾斜の強い屋根にスペイン瓦を貼り、1階には張り出したベラン

旧 芝川又右衛門邸

ダがあるのが特徴。外観は洋館に見えるが、1階ホールは土壁の一つ、聚楽壁が使われ、2階座敷に暖炉が設けられるなど、洋と和が見事に調和するデザインとなっている。大正期に広がった和洋折衷住宅の先駆けとなった住宅との評価も高い。

芝川家の記録には「畳がリノリウムになっただけで、まるで洋館らしくない」という家族の話が残されている。完成当時は外壁に杉皮が使われていたが、火災に弱いという理由で増改築時にスパニッシュ風の壁に変更された。今回の復元工事では、武田五一の設計思想が反映した1933（昭和8）年当時の外観にした。阪神間モダニズムを伝える遺産が明治村で甦った。



名鉄犬山駅からバス20分。問い合わせは明治村（0568・67・0314）。「pin's eyes」は今回で終わります。ご愛読ありがとうございました。